



セルビア人大学院生(右2人)とILC実現への期待などを語り合う盛岡一高の生徒(左3人)

# 国際研究の場イメージ

県の国際リニアコライダー

（ILC）モデル推進校

の盛岡一高(川上圭一校長、

生徒842人)の2年生8

人は26日、盛岡市上田の同

校で、セルビアから訪れた

素粒子物理学の大学院生と

意見交換した。日本でのI



LC実現への期待などをテ

ーマに懇談した。

クラグイエバツツ大博士

課程のゴラン・カチャレビ

ツチさん(32)と、ノビ・サ

ド大博士課程のナターシャ

・ブカシノビツチさん(27)

が訪問。2人はILCなど

## 盛岡一高生 セルビア人留学生と懇談

の加速器実験に使う測定器の研究のため、東北大学院理学研究科に短期留学している。

懇談は生徒が積極的に英語で質問し、和やかに進んだ。カチャレビツチさんは「私も日本でILCに関わりたい。仙台は英語表記は少ないが不便ではない」と指摘。ブカシノビツチさんは「もっと研究を深めたい」と情熱を語った。

8校あるモデル推進校で外国人研究者を招いた交流は初めて。鎌田千里さんは「世界の研究者が集うILCのイメージがつかめた」と目を輝かせ、藤本翔さんは「国際研究には英語のコミュニケーション能力が大切だ」と刺激を受けていた。